



市川市立大和田小学校 学校運営協議会だより

市川市立大和田小学校
学校運営協議会
第 3 号
令和 7 年 10 月 1 日

第3回学校運営協議会を開催しました。

(1) 第3回学校運営協議会（概要）

【日時】 令和7年9月25日（木）14時15分～15時30分

【場所】 大和田小学校 のびのびキッズルーム

【構成】 地域住民代表・保護者代表・学識経験者・本校学校長・本校教職員（計15名）

【参加】 12名（過半数に達しているため、会議成立）

- 【次第】
- 1 校長挨拶
 - 2 児童意見交流会
 - 3 学校評価アンケートについて
 - 4 協議「地域と学校で取り組めそうなこと」
 - 5 諸連絡



(2) 協議・報告及び意見交換の内容

①議題1：児童との意見交流会からの発表

<委員会と地域連携と情報発信に関する提案>

- ・ブックドライブとフードドライブの連携:市の活動として行われているブックドライブ（不要な本の回収・再利用）とフードドライブを連携させ、地域貢献活動の幅を広げたい。
- ・学校新聞を地域掲示板へ貼ることで、学校の出来事を地域住民にも伝え、学校への理解と関心を高めたい。
- ・放送委員会による校内放送で、地域のイベント情報などを児童に伝えたい。
- ・代表委員会による募金活動の際、地域の協力を得ながら募金活動を行い、社会貢献への意識を高めたい。
- ・住民から「地域の良いところ・悪いところ」をアンケート等で募集し、その結果を校内放送で共有することで、児童が主体的に地域課題を考えるきっかけとしたい。
- ・地域のスタンプラリーなどのイベントに参加、あるいは企画から関わり、地域の一員として活動したい。

<クラブ活動の活性化に関する提案>

- ・手芸、将棋、百人一首、各種スポーツのコツ、プログラミング、料理など、専門的な知識や技能を持つ地域の方を講師として招き、本格的な指導を受けたい。
- ・茶道のワークショップなど、普段なかなか体験できない文化に触れる機会を設け、興味の幅を広げたい。
- ・百人一首クラブでは、地域の百人一首が強い方と対戦する機会を設け、競技かるたの魅力を深く学びたい。
- ・読書活動の深化: 本を読むだけでなく、その本が直木賞や芥川賞を受賞した背景や、作者の意図などを解説してくれる専門家を招き、より深い読書体験をしたい。
- ・児童の力で本格的な理科実験に取り組めるクラブの新設や、校内での謎解き大会の開催を希望したい。

<学校環境改善に関する提案>

- ・地域連携による掃除クラブ: 地域住民や清掃の専門家と連携した掃除クラブを組織し、掃除の技術やコツを学びながら、共に学校環境を美化し、新たな交流を生み出したい。

裏面に続く



児童と意見交換をする
委員の方々

②議題2: 学校評価アンケート結果の報告（教頭より）

<保護者向けアンケート結果の分析>

保護者を対象としたアンケートでは、以下の点が報告された。

- ほとんどの項目において市内平均を上回っており、保護者から高い評価と信頼が得られていることが示された。
- 昨年度との比較において、特に評価が伸びた項目（最大で+7.9ポイント）が見られ、学校の取り組みが着実に成果に結びついていることが確認された。
- ▲児童が実感している「体験活動」の充実度について、保護者の認識との間に若干の乖離が見られた。このことから、学校での活動内容をより積極的に家庭へ発信し、児童の実感を共有していくことの重要性が示唆された。

<児童（5・6年生）向けアンケート結果の分析>

5・6年生を対象としたアンケートでは、極めて肯定的で注目すべき結果が多数報告された。

- 多くの項目で市内平均を5ポイント以上も上回る結果となり、児童が学校生活に対して非常に高い満足度と肯定的な意識を持っていることが明らかになった。
- 「困ったことがあった時に相談できる先生がいますか」という質問に対し、【91.7%】の児童が肯定的に回答。これは昨年度から大幅に上昇しており、市内でも突出して高い数値であり、児童と教職員の間に信頼関係が構築されていることを示している。
- 「学校は体験活動を取り入れていると思いますか」との問いには【94.2%】が肯定。これも昨年度から大幅に上昇しており、児童自身が日々の学習における体験活動の豊かさを実感していることが裏付けられた。
- ▲「読書に親しんだり、図書資料を活用したりしている」という項目は、昨年度より改善は見られたが、他の項目と比較すると依然として相対的に低い水準にある。読書活動のさらなる推進が今後の課題として示された。

③議題3：意見交換

- ・多くの委員から、アンケート結果、特に「友達の良いところを見つけられる」（99%）や「困った時に相談できる先生がいる」（91.7%）といった項目に感動の声が上がった。これは、児童の高い自己肯定感と、教職員との強い信頼関係が育まれていることの証であると評価された。
- ・保護者アンケートの「正しい食習慣」に関する項目の数値について、仕事と育児に奮闘する保護者の「これで良いのだろうか」という不安や、日々の努力が反映された結果ではないかとの洞察が示された。
- ・児童たちが希望に満ち、目を輝かせながら未来について語る姿に、多くの委員が感銘を受けていた。また、児童の提案の根底には、専門的な知識やスキルを持つ大人（地域の人々）から指導を受け、手伝ってほしいという強い期待があるとの分析がなされた。
- ・複数の委員から具体的な協力の申し出があった。競技かるたの独特な読み方や覚え方の指導協力、および読書活動の深化についても支援が可能であるとの申し出があったほか、将棋の経験がある委員からクラブ活動での対戦相手や指導、音楽活動における地域住民とのセッションのマッチング支援など様々な可能性が示された。
- ・アンケート結果を分析する上で、児童・保護者・教職員という3者間の認識の差異（ギャップ）に注目し、その背景を深く考察することが、学校運営の本質的な課題発見と改善に繋がるという重要な視点が提起された。



（3）諸連絡

（4）学校運営協議会 開催予定

学校運営協議会は、保護者や地域住民の方々が傍聴することができます。傍聴を希望される場合は、協議会当日、開始時刻の10分前までに会場へ直接お越しください。また、日程等につきましては、変更が生じる場合もあります。その場合は、学校ホームページでお知らせいたします。

○第4回・・・令和7年10月18日（土） 9：30～11：30